この計画書は参考であり、工事の内容、現場状況に応じ適切に作成して下さい。

参　考

工事件名　○○○○○○工事

配管工事施工計画書

工事監理　北陸地方整備局営繕部　保全指導・監督室

（又は北陸地方整備局　金沢営繕事務所）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 品質計画について承諾 | | 内容の確認 |
| ○○年○○月○○日 | | ○○年○○月○○日 |
| 主任監督員 | 監督員 | 監理業務受託者 |
|  |  |  |

監　理　　○○○○会社

監理業務がある場合のみ記載する。

管理技術者　　　　　○○　○○　印

主任技術者　　　　　○○　○○　印

受注者　　○○○○建設工業(株)

主任（監理）技術者　○○　○○　印

現場代理人　　　　　○○　○○　印

1 一般事項

1.1 総 則

1.1.1 適用範囲

　　　　この施工計画書は、○○○○○○○工事の施工に適用する。

1.1.2 適用図書

*※ 「総合施工計画書による」として省略可能*

2 施　工　管　理

2.1 工事内容

*※ 部位毎の種別、規格、計画施工数量等*

2.2 施工管理体制

*※ 施工業者名及び作業の管理組織、「一工程の施工」の確認及び報告を行う者、*

*有資格者一覧表及び免許証写し等（資格が求められる者のみ）*

2.3 工 程 表

*※ 当該工種の施工工程を記載する。*

*※ 施工（全体、部屋別、階別等）等の時期、「一工程の施工」の検査時期*

2.4 材　　料

2.4.1 材料

*※ 塗装箇所及び下地材による塗料の種別、防火材料の認定の有無、製造所名*

*※ 規格証明書（材料に規格マーク等の表示があるものは省略）*

（参考記載例）

　　2.4.1（１）配管材料

*※ 用途と使用材料を記載すること。*

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 配管種別 | 使用配管材料名 | 記号 | 規格 | 備考 |
| 冷温水配管 | 配管用炭素鋼鋼管（白） | SGP-（白） | JIS G 3452 |  |
| 給水配管 | 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 | SGP-VA | JWWA K 116 |  |

2.4.1（２）継手類

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 配管種別 | 使用継手材料名 | 記号 | 規格 |
| 冷温水配管 | ねじ込み式可鍛鋳鉄製管継手 | JIS B 2301 | 呼び径125以下まで |
| 給水配管 | 水道用ライニング鋼管用ねじ込み式管端防食管継手 | JPF MP 003 |  |

2.4.1（３）配管付属品

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 付属品 | 名称 | 記号 | 規格 |
| 仕切弁 | 青銅製（5K） | JIS B 2011 | 呼び径50以下まで |
| ねずみ鋳鉄弁（５Ｋ） | JIS B 2031 | 呼び径６５以上  （冷温水配管は除く） |
| バタフライ弁 | ウェハー型ゴムシートバタフライ弁（10K） | JIS B 2032 | 呼び径５０以上  （冷温水配管のみ） |
| 伸縮管継手 | ベローズ型（ベローズJIS G 4305） | JIS B 2352規定のフランジ型 |  |
| ねじ接合材 | 防食用ペーストシール剤 | JWWA K 146 |  |

3 接続

*※　具体的な施工方法と施工上の注意すべき事項を記載する。*

（参考記載例）

3.1 鋼管接続方法

　　呼び径80以下はねじ接合とし、呼び径100以上はフランジ接続とする（排水及び通気管を除く。）。

　（１）ねじ接合

　　　接合用ねじは、JIS B 0203（管用テーパねじ）による管用テーパねじとし、接合にはねじ接合材を使用し、接合時には、ねじ山、管内部及び付着している切削油、水分、ほこり用を十分に除去した後、おねじ部のみ適量塗布してねじ込む。

4 勾配、吊り及び支持

*※　配管の種類毎に、勾配吊り支持に違いがあるため、具体的な項目を記載する。*

（参考記載例）

・アンカーはおねじアンカーを使用

・鋼管の横走り管の吊り用ボルトの径は、配管呼び径100以下はM10とする。

・ピット内配管の吊り用ボルトは、ステンレス製とする。

・吊り間隔は以下の通りとする。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 呼び径 | 20 | 25 | 32 | 40 | 50 | 65 | 80 | 100 |
| 分類 |  |
| 吊り金物による吊り | 鋼管 | 2.0ｍ以下 | | | | | | | |
| ビニル管 | 1.0ｍ以下 | | | | | | | 2.0ｍ以下 |

5 試験

*※　配管用途により試験方法が異なるため、具体的な項目を記載する。それ以外は*

*概要程度で良い。*

（参考記載例）

　配管試験は以下の通りとする。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 配管種別 | 試験方法 | 試験圧力 | 耐圧時間 | 備考 |
| 給水配管 | 水圧試験 | 1.75MPa | 60分 |  |
| ・・・・・ | ・・・・ |  |  |  |

6 品質管理

6.1 管理体制

*※ 品質管理体制・管理責任者*

6.2 管理方法

*※ 管理の項目・水準・方法、品質記録文書の書式とその管理方法*

（参考記載例）

作業前に、現場代理人から作業手順の説明後、作業開始

作業員による施工確認（下請の主任技術者が一連の作業を確認）

主任技術者（下請）による確認（チェックリストにより確認）

元請の主任（監理）技術者による施工状況確認（チェックリストにより確認）

7 品質管理チェックリスト（参考）

*※　いつ、誰が、何を確認するかを明確にすることにより、品質の確保のためのチェック内容を記載する。*

（参考記載例）

　２.３．に記載ある一工程毎にチェックリストにより施工の確認を行う。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 確認日 | | ○○年○○月○○日 | | | 現場代理人 | 主任（監理）技術者 | 下請主任技術者 |
| 施工箇所 | | １階便所ピット内給水配管 | | |  |  |  |
| 工程 | | 管理項目 | 管理・確認方法 | 目標値 | | 下請 作業日毎 | 元請 |
| 1 | 材料搬入 | 配管材：SGP-VA 継ぎ手：水道用ライニング鋼管用ねじ込み式管端防食管継手(JPN MP 003) | 目視確認 | 規格が明確に確認出来る。 | |  |  |
| 2 | 配管切断 | ハンドソーによる切断を行っているか。 | 目視確認 |  | |  |  |
| 3 | 管端処理 | 管端内部のバリ取り、面取りを行っているか。 | 目視確認 | 内部面取り時に、鋼管部分が露出していないこと。 | |  |  |
| 4 | ねじ加工 | 自動定寸付ねじ加工機を使用しているか。ねじ加工後、テーパねじで確認しているか。 | 目視確認 |  | |  |  |
| 5 | 接合 | 締め付け後の残りねじ山数の確認 | 目視確認 | 20A＝残り山5山 25A＝残り山4山 | |  |  |
| 6 | 吊り・勾配 | 施工図通りの位置に施工されているか。 | 目視確認 施工図 勾配計 | 吊り高さが均一か曲がり部に支持はあるか。 | |  |  |
| 7 | 圧力試験 | 1.75Mpaで60分以上保持（全配管施工後）  （部分的な試験は空気圧力試験で○○MPaで60分行う。） | 目視確認 | 圧力低下は無いか。 | |  |  |
| 8 | ねじ部錆止 | ねじ部の錆止め、パイプレンチ跡のタッチアップ処理確認 | 目視確認 | 保温施工前に確認。 | |  |  |
| 自主検査指摘事項 | | | 手直し方法 | | | 再検査日 | |
|  | | |  | | |  | |

8 写真撮影

*※　写真撮影の計画書を別に作成した場合は、記載不要。*

　8.1 撮影者

*※　取り忘れを防止するため、誰がいつの段階で撮影するかを記載する。*

（参考記載例）

（１）現場代理人若しくは主任（監理）技術者にて撮影する。

　8.2 撮影箇所

*※　撮影箇所は、取り忘れ防止や必要箇所以上の撮影の防止するための計画を記載す　る。*

（参考記載例）

（１）材料搬入時に材料、規格が分かるように撮影する。

　（２）材料の加工→接続まで、一連の作業行程が分かるように撮影する。

　（３）隠蔽部は特に重点的に撮影する。

（４）試験開始前と試験完了後の撮影であることが分かるように、時計等を一緒に撮影

する。